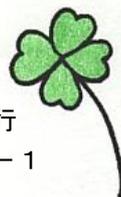


クローバーつうしん

CLOVER TIMES



2019年1月1日 第43号

公益財団法人 金森和心会

クローバー子供図書館 / 発行

〒963-8851 郡山市開成6-346-1

TEL/FAX 024-932-2118

<http://www.k-washinkai.or.jp/clover/clover.html>

「図書館移転再開の思い出話」

針生ヶ丘病院 事務部長 金森 悦

新年おめでとうございます。

平成も残すところあと4ヶ月、この元号で最後の新年を迎えることになりましたが、クローバー子供図書館の長い歴史の中で、平成はきっと忘れられない時代になると思います。

図書館が平成19年8月に現在地へ移転してから12年。干支で言うところちょうど一回りしたことになり、この地域の一員としてしっかりと認知されてきたのではないかと思います。

昭和27年に開成四丁目が開館した図書館は平成10年4月、建物の老朽化のため一般貸出を休止しました。その後、何度となく移転の話が出ていたようですが、なかなか実現には至らなかったと聞いています。移転再開の数年前から、金森良理事長を中心に今後の図書館のあり方を考え、再開に向けた準備が具体化していく中で、移転先が現在の場所へ決定、建物は子どもたちに夢を与えるようなユニークなものにしようとしてドーム型のものが採用されました。私自身この再開の計画には建物設計の途中から関わる機会をいただきましたが、ドーム型の建物は普通の建物と違い、業者さんとの打合せでもなかなかイメージが湧かない、どのような建物になるのかワクワクしながらも四角くなっているモノの考え方を丸くするのに苦労した記憶があります。建物の打ち合わせと並行して開館時間や曜日の検討などを行いました。休館前に利用していた子どもたちは成長し、小学生だった利用者は中学生や高校生になり、また、時代も少なからず変わっていく中で読書の志向や生活習慣に変化があると思われるようになりました。このため、再開する図書館にどのような

ことを期待するのか、どのような本があったら訪れてみたくなるか等を近隣の幼稚園や学校、町内の方々、病院職員などを対象にアンケート調査を行うことになりました。アンケートの回答にご協力いただくため、多くの方々にお会いしてお願いしましたが、皆さんとても協力的で、中には私の知らない昔の図書館のことをお話しして下さったり、私と同世代の方は子ども頃よく図書館に通っていたので、再開したら自分の子にも是非行かせたい、などのお話しをいただき、休館前の図書館が地域の中でとても親しまれていたことを実感しました。また、これを機に地域の方々との繋がりが深まったことは私にとっても嬉しいことであり、今でも親しくお付き合いさせていただいています。アンケートは千人を超える方々から回答をいただき、その結果からも図書館の再開を待ち望む声が多く、期待の大きさが伝わってきました。また、平日午後のご利用を希望されている方が多いことが分かり、再開時は13〜18時に開館すること、ニーズに合わせて開館日を徐々に増やしていくこと、蔵書は子ども向けはもちろん、その親や高齢者向け、更に病院に隣接することから病気の本なども置くこと等を決めてスタートしました。

再開から13年目に入る今年、新しい時代を迎えます。幼かった子が大人へと成長していく過程で、図書館から少し離れる時期があるかもしれません。でも、あるとき昔懐かしいドーム型の屋根をした図書館を見かけ、ふらっと中に入ってみると、そこはたくさんのお本で囲まれた昔と変わらない館内と懐かしい思い出が蘇ってくることでしょう。クローバー子供図書館はどんな時代でもどんな世代の方でも来館される方を温かく迎え、多くの方々へ愛され親しまれる図書館であり続けて欲しいなと思います。

